

「常に理想を失わず」

“Never Forget Your Ideals”

吉永 洋子

YOSHINAGA Hiroko

上田先生、この度は誠におめでとうございます。1980年代の初期のころからの宗片先生の「シェイクスピア能」公演のさまざまのご苦勞を存じ上げております私ども静岡人にとって、先生のこの度のご叙勲は、誠に嬉しく、また感慨深いものがございます。長年のたゆまぬご努力がようやく一つ報われたという感慨です。

御著書の「ブライズ先生、ありがとう」によって陛下ともお言葉を交わされたとのこと。何という喜びでしょう。「世界のすべての文化の調和と融合」を通じての、「世界の平和」を願い、さらにはこの「地上の天国化」という壮大な夢を見ておられる先生のお心が、陛下にも通じたものと存じます。

私どもにとってもこのことは大きな誇りです。心より尊敬申し上げ、この度のご授章をお慶び申し上げます。

私たちが「静岡けんみんテレビ」のカルチャーセンターで、宗片先生の「英会話」講座を受講させていただいたのは、先生が1975年、ハーバード大学から帰国されてまもなくでした。この講座は永井道雄先生のご紹介でおっしゃっていました。

そのころの先生は、英語で謡曲ができないものかと苦心しておられました。そしてある日、ハムレットの有名なせりふ“To be or not to be, that is the question”が謡曲の「高砂や。この浦船に」と同じように謡えると発見(?)された喜びを話されました。

それから数年後、静岡新通りの料理屋「あなごや」の二階の能舞台で「英語能ハムレット」が初演されました。会場は満席で、中学生の息子さんが一番後ろで、ハンデイクामでビデオ撮影していらっしゃるのが印象的でした。

その時先生は、シェイクスピアの原文に日本語訳をつけた対訳台本を配られただけで、解説なしで演じられました。出演者は10人ほどで、お囃子はテープでした。

公演後、「解説なしではさっぱりわからん。もう来ない」と文句を言ってきた人がいたと話されましたが、これが「世界最初のシェイクスピア能」公演だったのですね。

その後、磐田市の醍醐荘能舞台や修善寺のあさば能舞台でも演じられ、英米人も沢山観にこられ、先生は「英語で能をやる人」としてテレビなどでも紹介され、さらに東京やアメリカでも公演されるようになりました。

私が特に印象深く記憶していますのは、先生が中村明一さんという尺八の名手の方とお二人だけで共演なさった「英語能ハムレット」の醍醐荘公演です。世阿弥の頃は尺八も用いられたとおっしゃって。自然の静寂の中、先生の美しい英語のお話しと尺八の宗教的な音色と。私は受付のお手伝いでしたが、とても素敵な公演でした。後でその時の録音テープをお聴きになった村松眞一先生が、「これは私の宝物です」とおっしゃったとか。

しかし経済的な理由などからお仲間が次々にやめて行かれる中、先生は様々な困難を乗り越えて、おひとり続けてこられ、この度のご叙勲となりました。

先生が皇太子殿下（現陛下）の英語の家庭教師ブライズ先生にやはり長年教わられたことなども思い、陛下から勲章を戴かれ、お言葉を交わされたということは、感無量の感激でしょう。先生の「ブライズ先生、ありがとう」を再読し、改めて随所に感動いたしております。ブライズ先生は陛下に、英語以上に生き方を教えられたのだと。

先生の英会話の講座は、生き方講座でもありました。「死はすべての終わりではない」とか、「この世に生きている限り、精一杯生きたい。そして順繰りこの世を去る時は、さらに美しい世界へ往くのだ」とか。

また、「常に理想を失わず」などのお言葉は忘れられません。そしてそれが先生の新作能のテーマであるということは、最近になって分かりました。

次の作品を見せていただくのが楽しみです。12月8日、今度は「ロミオとジュリエット」だそうですね。

(KK グランディール代表取締役、焼津市)